

製品名: CRP ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab09421**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	人間、ネズミ
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	25kDa

抗原情報

遺伝子名	CRP
別名	CRP; PTX1; C-reactive protein
遺伝子 ID	1401.0
SwissProt ID	P02741
免疫原	抗血清はヒト CRP の内部領域から合成したペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 101-150

背景

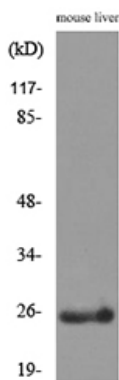
C 反応性タンパク質 (CRP) ホモサピエンス この遺伝子によってコードされるタンパク質はペンタキシンファミリーに属します。外

来病原体や宿主の損傷細胞を認識し、血液中の体液性および細胞性エフェクターシステムと相互作用してそれらの排除を開始する能力に基づき、いくつかの宿主防御関連機能に関与しています。その結果、組織損傷、感染、またはその他の炎症性刺激に対する急性期反応において、血漿中のこのタンパク質濃度は大幅に上昇します。[RefSeq 提供、2009年9月],補因子: サブユニットあたり2個のカルシウムイオンを結合します。機能: 宿主防御に関連するいくつかの機能を発揮します。カルシウム依存性のホスホリルコリンへの結合を介して、凝集、細菌莢膜の腫脹、貪食、および補体結合を促進します。DNAやヒストンと相互作用し、損傷した循環細胞から放出された核物質を捕捉する可能性がある。誘導: 組織損傷、感染、またはその他の炎症刺激に対する急性期反応において、血漿中のCRP濃度は大幅に増加する。これはIL-1およびIL-6によって誘導される。質量分析: 文献14,その他: このタンパク質は、カルシウム存在下で肺炎球菌C多糖体を沈殿させる能力にちなんで名付けられている。オンライン情報: C反応性タンパク質のエントリ,オンライン情報: クリスマスプディングはもうない? - 2003年1月号第30号,類似性: ペンタキシンファミリーに属する。類似性: 1つのペンタキシンドメインを含む。サブユニット: ホモペンタマー。ペンタキシン (またはペントラキシン) は、5つの非共有結合サブユニットが円盤状に配列している。組織特異性: 血漿中に存在。,

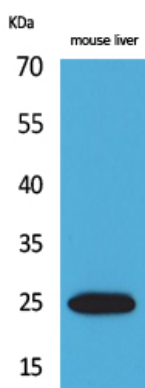
研究分野

免疫学

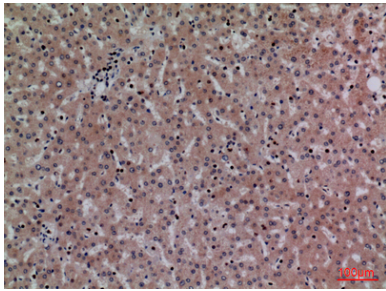
画像データ



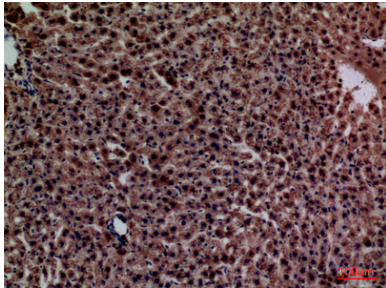
CRP抗体を使用したマウス肝細胞溶解液のウェスタンブロット分析。



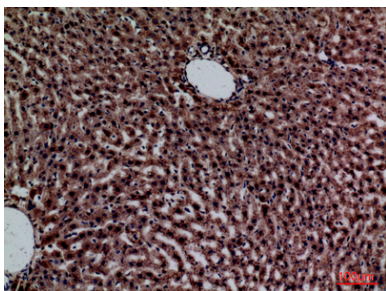
CRPポリクローナル抗体を用いたマウス肝細胞のウェスタンブロット分析。二次抗体は1:20000に希釈された。



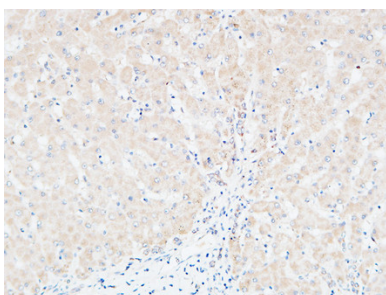
パラフィン包埋ヒト肝臓の免疫組織化学分析、抗体は 1:100 に希釈された



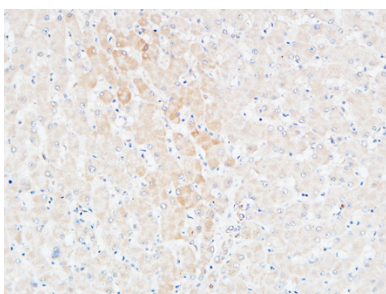
パラフィン包埋ラット肝臓の免疫組織化学分析、抗体は 1:100 に希釈された



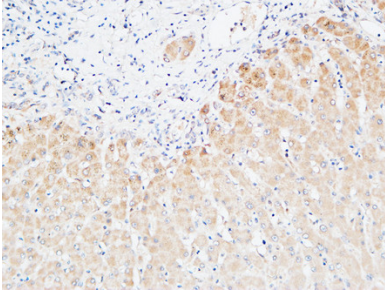
パラフィン包埋ラット肝臓の免疫組織化学分析、抗体は 1:100 に希釈された



パラフィン包埋ヒト肝臓の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈 (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。



パラフィン包埋ヒト肝臓の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈 (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。



パラフィン包埋ヒト肝臓の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈 (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。